

しがらみを抜け出して 新しい社会システムを

笹森 清（中央労働者福祉協議会会長）



連合会長時代に私は協同労働の協同組合法を求める集会であいさつさせていただき、各政党に要請することもしましたが、中央労福協の会長に専任するようになり、労協連にも会員になっていただきました。ここからはどう共同歩調をとるか、本気でやるか、ということに尽きます。

中央労福協は50年の歴史があり、日本生協連2,200万、労金1,100万、全労済1,300万、連合700万人。単純計算すると5,300万人の会員がいます。

労働団体、福祉団体、NPO、それぞれの団体が「塀」をとっぴらって、連携をとりながら、安心して暮らしていける日本社会をつくりたい。これが、私の思いです。

労働組合は最盛期55.7%の組織率が18.7%に。しかも、組合員がいる企業数は6万5000社で、日本にある270万社の3%にもなりません。97%の企業で働いている人たちが労働組合なんて見たことがない。

こうなった原因を突き詰めながら、いままでの固まり、グループから抜け出し、多くの働く人たちとも、家庭生活をしている人たちとも手をつないでいかなければならないと思うのです。

戦後60年。社会は決定的に変わってきます。

グローバル社会 少子高齢社会 情報技

術の進展社会

地球環境循環型社会、この4つの社会変化の中で、働き方、暮らし方、生き方をどう変えるか、そのシステム、ルールをどう作りかえるか。

その際、高齢者 女性 障害のある方 新規卒業者 移民労働者 二極化が進む現役労働者、これらの方々の働き方をどう変えるのかが問題であります。その共通目標は「労働を中心にした福祉型社会」、つまり、働くことで生計を営んでいる人たちの生活の安全保障がめぐらされた社会を、我々の手で作りあげることができるかどうかです。

これは、ILOが提起しているディーセントワーク、尊厳ある労働ということであり、協同労働法も、労働組合も、求めているものは同じだと思います。

日本で尊厳ある労働のために欠かしてはならない制度、ルールは、均等待遇です。それを作り上げたうえで、地域社会との共生をめざし、健康 介護 保育 教育といった課題に取り組んでいく。

働くことを通じて、本当に協同し、手を取り合って、いままでのしがらみを抜け出したなかで、新しい社会システムを作りあげていきましょう。